

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
泉谷 泰行			
火3、4			
添付ファイル			

科目の概要	生物が生きて活動し続けるには栄養素からエネルギーを産生し、エネルギーを取り出し使用する必要がある。本科目ではヒトが生きるためのシステム（ホメオスタシス）、すなわち人体の構造と機能の基本的事項について講義し、人体に発生する疾患の理解の礎となる知識を伝達する。また、理解度テストを適宜行い、管理栄養士・栄養士資格取得の心構えを伝達する。
授業の内容	<p>第1回 解剖学・生理学の基礎 四大組織、細胞・細胞内器官の機能、ATP、栄養素 教科書第1章に目を通し、細胞・組織について自主的に調べておくこと</p> <p>第2回 消化器系① 消化器系臓器の構造と機能、摂食・嚥下、胃、小腸 教科書第6章に目を通し、消化・吸収・代謝の流れや消化酵素を自主的に調べておくこと。</p> <p>第3回 消化器系② 肝・胆・膵の構造と機能、大腸、排便 教科書第6章に目を通し、肝臓機能や排便について自主的に調べておくこと。</p> <p>第4回 まとめと振り返り① 理解度テスト①、その他重要事項の補足 学んだ内容を復習しアウトプットできるように対策しておくこと。</p> <p>第5回 血液・循環器系① 血液成分、心臓と血管の構造と機能、代表的な血管、心周期 教科書第4章に目を通し、血液循環の流れについて自主的に調べておくこと。</p> <p>第6回 血液・循環器系② 血圧と血圧の調節概要、微小循環、リンパ系 教科書第4章・12章に目を通し、血液と血圧の関係について自主的に調べておくこと。</p> <p>第7回 呼吸器系① 呼吸器系臓器の構造と機能、気道と肺・肺胞、呼吸運動 教科書第5章に目を通し、呼吸のメカニズムについて自主的に調べておくこと。</p> <p>第8回 呼吸器系② 呼吸気量、酸素飽和度、呼吸の調節概要 教科書第5章に目を通し、呼吸の調節と酸素飽和度について自主的に調べておくこと。</p> <p>第9回 まとめと振り返り② 理解度テスト②、その他重要事項の補足 学んだ内容を復習しアウトプットできるように対策しておくこと。</p> <p>第10回 泌尿器系 泌尿器系臓器の構造と機能、尿生成の仕組み、排尿 教科書第7章に目を通し、尿生成の仕組みについて自主的に調べておくこと。</p> <p>第11回 体液と体液平衡 血液と体液、体液の酸塩基平衡概論 教科書第7章・12章に目を通し、体液成分とその調節機構について自主的に調べておくこと。</p> <p>第12回 まとめと振り返り③ 理解度テスト③、その他重要事項の補足 学んだ内容を復習しアウトプットできるように対策しておくこと。</p> <p>第13回 知識の統合と演習① 人体の構造と機能に関する知識の統合① これまでに学んだ解剖生理学的用語を自主的に振り返っておくこと</p> <p>第14回 知識の統合と演習② 人体の構造と機能に関する知識の統合② これまでに学んだ解剖生理学的用語を自主的に振り返っておくこと</p> <p>第15回 知識の統合と演習③ 人体の構造と機能に関する知識の統合③ これまでに学んだ解剖生理学的用語を自主的に振り返っておくこと</p> <p>定期試験</p>
学習到達目標	医療従事者には患者およびその家族に対する病態の説明義務がある。説明することにより患者は安心して医療を受けることができ、またその家族は安心して医療現場に任せることができる。しかし、医学用語の丸暗記では十分な説明は困難であり、結果、治療に様々な支障をきたす。それを防ぐためには、医学用語の単なる丸暗記ではなく、まずは器官系の構造や機能を理解することである。この講義では、理解することを心がけ、第三者に説明できるようになることを目的とする。
授業の方法	【授業形態】 講義形式
成績評価の方法	【評価項目】 小テスト、定期試験

	【割合】小テスト（30%）、定期試験（70%）
教科書・テキスト	特に指定しない。
参考書	「読んでわかる解剖生理学（テキスト）」 竹内修二著、医学教育出版社
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	人体の構造と機能について、講義で取り上げた知識については最低限、事後学修にて復習を行い知識の定着を図ること。また、人体に発生する疾患の理解につなげるため自主的に周辺知識の習得に励むこと。
履修上の留意事項	勉学にいそむ学生の邪魔をする行為（過度な私語など）は禁止する。また板書した内容およびスライドをカメラなどで撮ることおよび講義中の携帯電話・スマートフォンの使用は禁止する。単なる専門用語の丸暗記ではなく、まずは内容を理解することを念頭に置いて下さい。
オフィスアワー	講義終了直後に講義教室にて声掛け下さい。講義直後以外のコンタクトは「担当教員への連絡方法」をご確認下さい。
課題に対するフィードバックの方法	定期的に行う小テストに関しては、テスト終了後に解説行い、次回の講義にて返却する。
実務経験	鍼灸師
その他	特になし。